

上部構造と土台、交通形態・市民社会と宗教・哲学・道徳等々。

「したがってこの歴史観は、次のことにもとづいている——すなわち、現実的生産過程を、しかも直接的生の物質的生産から出発して展開すること、そして、この生産様式と結びついていて生産様式によって生みだされた交通形態を、つまりさまざまな段階の市民社会を、全歴史の基礎として把握すること、そして、市民社会をその国家としての行動において示すとともに、宗教・哲学、道徳等々、意識のあらゆるさまざまな理論的な産物と形態を市民社会から説明し、それらのものの成立過程を市民社会のさまざまな段階から跡づけることである。こうすれば、おのずからまたことがらをその全体性において(それゆえこれらさまざまな側面の相互作用をも)示すことができるのである。」

④-[10]P65上8～下8 (マルクス・エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』)